

世界文化遺産：長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

宣教師不在の中で発展した独自の宗教的伝統

—この世界遺産と構成資産の価値

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、日本の潜伏キリシタンの伝統のあかしである遺産群です。宣教師を国外に追放したキリスト教禁止令に関わらず、潜伏キリシタンは神道や仏教などの日本の伝統的宗教や一般社会と関わりながら彼らの宗教を維持しました。この世界遺産は（１）宣教師が国外に追放されキリシタンが潜伏することになったきっかけ、（２）キリシタンがひそかに信仰を実践し共同体を維持するためにとった戦略、そして（３）宣教師との再接触をきっかけにキリスト教信仰が復活した転機、に関連する 12 の構成資産からなります。キリスト教は大航海時代に初めてアジアに伝えられ、日本はアジアの東端に位置していました。日本での宣教は、長崎地方でもっとも集中的に行われました。そのため、この 12 の構成資産はこの地方の半島や離島に点在しています。

世界遺産とは何か

世界遺産とは、自然に、または人類によって生み出されたかけがえのない過去からの贈り物です。その遺産は世界のすべての国々に帰属しており、国際社会はこの遺産を未来へと伝えていくことを決めました。世界遺産は三つのカテゴリに分類されています。文化遺産のカテゴリには、顕著な普遍的価値を有する記念物、建造物群、遺跡が含まれます。自然遺産は、顕著な普遍的価値を有する地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息・生育地などです。複合遺産は、文化遺産と自然遺産の両方の定義を満たします。世界遺産の登録件数は 1,100 件を超えており、そのほとんどが世界文化遺産に分類されています。

1 原城跡

「島原・天草一揆」の主戦場跡。ここでの敗戦により、キリシタンは潜伏し密かに独自の信仰の方法を模索することを余儀なくされた。

2 平戸の聖地と春日集落（春日集落と安満岳）

3 平戸の聖地と春日集落（中江ノ島）

これらの地域ではキリスト教が伝わる以前から信仰されていた山やキリシタンが殉教した島を拝むことによってひそかに信仰を実践した。

（写真：日暮雄一）

（写真：日暮雄一）

4 天草の^{さきつ}崎津集落

この集落の人々は、身近なものを信心具として代用することによってひそかに信仰を実践した。

(写真：日暮雄一)

5 外海の出津集落

この潜伏キリシタンの集落では、キリスト教由来の聖画をひそかに拝むことによって信仰を実践した。

6 外海の大野集落

この地域の人々は、地元の神社にひそかにまつた自らの信仰対象を拝むことによって信仰を実践した。

(写真：日暮雄一)

7 黒島の集落

この集落の住民は、平戸藩の牧場跡に移住し、開拓することによって共同体を維持した。

8 野崎島の集落跡

キリシタンは、神道の聖地であった島に移住することによって共同体を維持した。

(写真：日暮雄一)

9 頭ヶ島の集落

頭ヶ島は、もともと天然痘患者を隔離するために使われていた。島に移住したキリシタンは共同体を維持することができた。

10 久賀島の集落

これらの集落の住民は、五島藩の移住政策に従って未開拓地に移住することによって共同体を維持することができた。

11 奈留島の江上集落（江上天主堂とその周辺）

この集落は禁教期に形成された。キリスト教解禁後に建てられたこの教会堂は潜伏キリシタンの時代が終わったことを可視的に表すもの。

12 大浦天主堂

キリシタンの潜伏が終わるきっかけとなった、潜伏キリシタンがフランス人宣教師に接触した「信徒発見」と呼ばれる出来事が起こった場所。